

自己評価報告書(最終報告)

コース等名

特別支援教育専攻

記載責任者

井上 とも子

■平成25年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 教員就職率向上方策について

本学は第二期中期目標・中期計画において、「学士課程において教員就職率を70%以上にする」と明記している。教師を目指す学生が一人でも多く自己の進路希望を実現できるよう、この数値目標を達成するのはもちろんのこと、より一層教員就職率を上げるため、貴専攻・コースではどのような取り組みを行うか。具体的な方策を示してほしい。

1. 目標・計画

- 1) 就職支援行事を重視し、確実に参加するよう専攻内連絡網を用いて、学生各人にEメール配信するなど、十分な周知を図る。
- 2) 各都道府県教育委員会からの教員採用にかかる推薦による募集に積極的に応募するよう、学生に周知を図る。

2. 点検・評価

- 1) 就職支援行事を重視し、確実に参加するよう専攻内連絡網を用いて、学生各人にEメール配信するなど、十分な周知を図った。
- 2) 各都道府県教育委員会からの教員採用にかかる推薦による募集に積極的に応募するよう、学生に周知を図った。
- 3) 個別に取得免許、希望を把握し、Eメール等を用いて個々に就職情報を送るなどきめ細かく対応した。
- 4) Webにより教員募集情報を検索し、個別に希望に応じて伝達するなど、支援に努めた。
- 5) 模擬授業、面接、VTRなどの資料の貸し出しを行った。

Ⅱ. 分野別

Ⅱ－1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

- 1) 専攻会議で常に学生についての情報を交換し、教員全員が情報を共有できるように努め、カリキュラムについて入念な指導を行うと共に、教員全体で協力して履修上のアドバイスや進路指導を随時行う。
- 2) 学生・院生に対する教育面・研究面での支援の充実のために、教材・教具・研究用機器・機材の充実に努め、貸与等、きめ細かいサービスを提供し、教育研究補助のための便宜を図る。
- 3) 学部生と院生が合同で歓迎会を行う等、学生相互間、及び教員－学生相互間の親睦を深めることに努める。

2. 点検・評価

- 1) 専攻会議で常に学生についての情報を交換し、教員全員が情報を共有できるように努め、カリキュラムについて入念な指導を行うと共に、教員全体で協力して履修上のアドバイスや進路指導を随時行うことができた。
- 2) 学生・院生に対する教育面・研究面での支援の充実のために、教材・教具・研究用機器・機材の充実に努め、貸与等、きめ細かいサービスを提供し、教育研究補助のための便宜を図った。特に、大きなけがをした学生に対し、十分な治療が受けられるよう、課題研究などにおいて便宜を図りながら、研究が滞ることのないよう個別に連絡、指導を行うなど決め顧客対応した。
- 3) 学部生と院生が合同で歓迎会を行う等、学生相互間、及び教員－学生相互間の親睦を深めることに努めた。
- 4) 海外留学希望学生に対し、コラボレーションオフィスに共に出向き、オフィスとの連携を密に図るなど尽力した。

Ⅱ－2. 研究

1. 目標・計画

- 1) 卒業論文や修士論文のテーマ、及び内容について、教員がその専門性を活かし、協力して指導すると共に、学会や雑誌に共同で研究発表できるようにする。
- 2) 地域と連携しながら、関係機関と特別支援教育に関する研究を行う。
- 3) 県内の特別支援教育の要として、公開講座等を通じて広範な研究・実践活動を展開する。

2. 点検・評価

- 1) 卒業論文や修士論文のテーマ、及び内容について、教員がその専門性を活かし、協力して指導すると共に、学会や雑誌に共同で研究発表することができた。
- 2) 地域と連携しながら、関係機関と特別支援教育に関する研究を行えた。
- 3) 県内の特別支援教育の要として、公開講座等を通じて広範な研究・実践活動を展開した。
- 4) 修士論文につながる、肢体不自由教育の研究として、スヌーズレンという新しい分野の研究において、専門医療機関と連携し、共同研究として成果を上げた。

Ⅱ－3. 大学運営

1. 目標・計画

- 1) 特別支援教育専攻の代表として、主要な委員会(院教務、学部教務、院入試、学部入試、就職)のすべてに専攻の教員が出席し、審議に参画する。
- 2) 基礎・臨床系教育部に所属する教員として各種委員会(専門部会、ワーキングなど)に出席し、積極的に会の運営に携わる。
- 3) 教員免許状更新講習の必修領域や選択領域に参画し、講習内容の充実と、対教師支援の充実に努める。

2. 点検・評価

- 1) 特別支援教育専攻の代表として、主要な委員会(院教務、学部教務、院入試、学部入試、就職)のすべてに専攻の教員が出席し、審議に参画した。
- 2) 基礎・臨床系教育部に所属する教員として各種委員会(専門部会、ワーキングなど)に出席すると共に、途中からの新設委員会等にも積極的に参画し、会の運営に携わった。
- 3) 教員免許状更新講習の必修領域や選択領域に参画し、講習内容の充実と、対教師支援の充実に努めた。
- 4) 教職大学院・高度専門職大学院の授業を1科目担い、昨年度のアンケートを勘案し、授業内容や形式を工夫して取り組んだ。今年度のアンケートは、前年度の課題を払拭できた形となり、評価得点があがった。

Ⅱ－4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

附属学校との連携

目標: 附属特別支援学校との教育・研究面での連携の強化。

具体的方策

- 1) 附属特別支援学校の重点研究及び、文部科学省委嘱事業プロジェクトについて、専攻教員が関わり、協働研究を推進する。
- 2) 教育実習など、附属特別支援学校の教育について、専攻教員全員で関わり、教育の充実と発展を共に推進する。

社会との連携

目標: 公立の諸学校、及び、県や市町村の教育委員会、保健・福祉・医療機関との連携を拡充し、社会貢献する機会を増やす。

具体的方策

- 1) 公開講座・教育支援アドバイザー等の活動を通じて、障害についての啓発を図るとともに、特別な支援が必要な子どもについてコンサルテーションを行う。
- 2) 徳島県の障害福祉や教育に関する研修会の講師招聘に応じて、県下の特別支援教育の推進に寄与する。

2. 点検・評価

- 1) 附属特別支援学校の重点研究及び、文部科学省委嘱事業プロジェクトについて、専攻教員が関わり、協働研究を推進し、途中経過において、定例会議のみならず校長や中心となった学校内センター長とも頻繁に協議し、まとめるに当たっても協力を惜しむことなく対応した。
- 2) 教育実習など、附属特別支援学校の教育について、専攻教員全員で関わり、事例検討会を定期的開催する中、助言者として参画し、教員の専門領域における資質向上に寄与するなど、教育の充実と発展を共に推進した。

社会との連携

- 1) 公開講座・教育支援アドバイザー等の活動を通じて、障害についての啓発を図るとともに、特別な支援が必要な子どもについて、幼稚園から高等学校まで、学校コンサルテーションを中心に行った。
- 2) 徳島県の障害福祉や教育に関する研修会の講師招聘に応じて、県下のみならず、中・四国における特別支援教育の推進に寄与した。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

1) 県下ブロック別市町村教育委員長会議において、本学の大学院募集要項と特別支援教育専攻の募集案内を配布方を県教育委員会の教職員課に依頼したり、四国地区、町村教育長会において講演し、その際、修了生の話などを通じて募集案内をししたりするなど、大学院の定員充足に努めた。